

あいち商店街アクションプラン

～ 「新時代商店街」 としての再生を目指して～

平成 1 9 年 3 月

愛 知 県

はじめに

商店街 かつてそこは中心市街地の核として、日常の生活を支える役割を担い、買い物や娯楽の場として、そして“まちの顔”として地域になくてはならない存在でした。

ところが、モータリゼーションの進展等により、人々が住居を郊外に移し、消費行動の多様化により、巨大な駐車場を備えた大型店に買い物の中心を移したことによって、多くの商店街では来客が減り、店舗も住居も少なくなって、往時のにぎわいが見られなくなっています。さらに、事業所や病院・役所などの公共公益施設も郊外に移転し、中心市街地全体の疲弊・衰退が一層進行しています。

そこで、国においては、今後の人口減少・超高齢社会に対応し、環境負荷が少なく、持続可能性の高い「コンパクトでにぎわいあふれるまちづくり」を目指して、「まちづくり3法」を改正し、中心市街地に様々な都市機能を集中させるべく、支援制度整備を進めています。

県では、こうした法改正の趣旨を踏まえながら、「中心市街地の核は今でも商店街にある」という認識のもと、地域における商店街の再生に取り組んでいくこととしております。

社会環境や人の意識が大きく変わってしまった今、「安さ、便利さ、気軽さ」だけでなく、暮らしの要素である「やさしさ、こだわり、ふれあい」の場を提供する商店街として、その役割をもう一度見直すべき時にきています。

日常の買い物の場としてだけでなく、従来からの役割であった地域コミュニティの中核として地域の安心・安全を支え、伝統・文化を守る役割に加え、新たに、生きがい・やりがいを重視した新たな「起業・就業の場」としての役割や自己実現のための「文化発信・交流の場」としての役割の創出など、新しい時代に即した商店街の姿が求められています。

そうした「新時代商店街」を、商店主の皆さんだけでなく、周囲の様々な人や団体の方々とともに創り出していくことを目的として、この「あいち商店街アクションプラン」をとりまとめました。

このプランでは、遠方からの来街者を含め、ふれあいを楽しみながら買い物ができ、高齢者も障がい者も、そして子どもたちも安心して過ごせ、若者や女性、団塊の世代を中心とした定年退職者達が夢を持って事業を起こせるような、活気溢れる商店街づくりに取り組む市町村・商店街を、集中的に支援していくこととしています。

これからの豊かでゆとりある社会づくりには、郊外は郊外の魅力を保ち、中心市街地は商店街の活性化等により、その吸引力を高めて、暮らしの選択肢を増やしていくことが不可欠であると考えています。

県民の皆さんのより一層の御理解と御協力をお願いいたします。

平成19年3月

愛知県知事 神田真秋

目 次

1 あいち商店街アクションプラン策定の趣旨等

(1)策定の背景	1
社会背景	1
商店街の現状	3
(2)策定の趣旨	6
(3)計画期間	8
(4)策定の方法	8

2 あいち商店街アクションプランの施策展開について

(1)目的及び目標	9
(2)目指すべき商店街の姿	11
(3)各主体の役割	15
(4)県の行動計画	21
成功例創出のための総合支援	21
「人材」に着目した支援とネットワーク化	23
地域住民等の理解と連携の促進のための場づくり	23
まちづくりの観点からの全庁的支援	24
大規模小売店舗の適正立地と共生促進のための ガイドラインの策定	25

3 参考

あいち商店街アクションプラン策定委員会委員名簿	28
-------------------------	----